

教育者としての「使命感」・「人間愛」・「創造力」を有する教員の養成を目指す

2016
秋
No.35

JUEN

【ジュエン】

Joetsu University of Education

国立大学法人
上越教育大学
Joetsu University of Education
学園だより

特集

大学、学校、地域を結ぶインターフェース

がっきょうセンター

【学校教育実践研究センター】



上教大サイコー!!



学部2年
自然系コース(理科)
鈴木 大輝 さん

成長をくれた 様々な“出会い”

上教大との出会い

上越教育大学と初めて出会ったのは高3の進路相談の時です。理科の教師になりたいという夢を持ち、教師という立場になる上で「教育」という分野について学びたいと考えていた私に先生が紹介して下さったことがきっかけでした。正直、最初は名前すら知りませんでしたが、実践的な授業内容をはじめ、実習の充実、豊富な自主活動など、今では大学のサポート体制のおかげで自分自身の教師としての資質や能力が向上できていると感じています。

「学びのひろば」との出会い

こちらも入学前は知らなかったのですが、大学で「学びのひろば」という活動に出会いました。昨年子ども企画系クラブというクラブに所属しており、今年はそのクラブの事務局員を担当させていただいています。「学びのひろば」は、教師になってから役立つような経験がたくさん積める場だと思います。教育実習だけでは学べないことも多く、自分にとって大きな糧となっています。



フットサルとの出会い

入学後、友人に誘われ、初めてフットサルに出会いました。入部したての頃は球技もチームスポーツも初めてで、ボールの扱いやポジション、連携の仕方など、色々頭を悩まされました。しかし、上手な人に教わったり練習を重ねていくうちにわかるようになり、挑戦や努力の大切さを知ることができました。最近はゴレイロというポジションもするようになり、これまでとまた違った楽しさも感じ始めて、ますますフットサルが楽しいです。

仲間との出会い

入学前の誰も知らない状態から、大学生活を通してたくさんの仲間と出会いました。苦楽を共にし、互いに助け合い、高め合いながら過ごす日々はとても楽しく、とても充実しています。残りの大学生活も今まで以上に充実したものにしていけたらと思います。



※学びのひろば
「学びのひろば」は、平成10年度に上越教育大学フレンドシップ事業の一環として始まり、「学生が子どもたちとふれあい、子どもの気持ちや行動を理解し、教員としての実践的指導力の基礎を身に付ける」ことを目的に実施してきた事業です。活動の企画・運営は、すべて学生が中心となっており、所属する9つのクラブが「子どもたちの笑顔」のため徹底的な議論を重ね、年7回の活動日に、近隣の小学校に通う子どもたちとレクリエーションや野外活動、工作、運動、2泊3日の宿泊活動などを実施しています。

音楽の世界を学ぶ

音楽で世界を学ぶ



研究室

よむこそへ

様々な音楽に触れる

世界には数多くの音楽文化が存在します。本学でも和楽器を中心に、形も音色も様々な多くの楽器を所持し、それらを用いた授業を開講しています。

これまでの音楽教育は、西洋音楽を中心に展開されてきました。しかしいまや「マルチカルチュラルリズム」の時代。「専門性」はもちろん重要ですが、多様な文化のあり方に対して開かれた感性を持つことが、さらに大切になってきています。

私もこの大学に来て触れる楽器の数(種類)が飛躍的に増えましたが、面白いのは、例えば同じ「和楽器」でも、ものによって求められるものが全く違うことです(使う筋肉の場所、重心を置く体の位置、力の入れ具合……。もちろん、共通する部分もあるのですが)。少し大げさな言い方をすれば、多様な音楽に取り組むことは、一人の人間が潜在的に持つあらゆる可能性を試してみること、未知なる才能を開発することなのです。

音楽観を深める

歴史を振り返ると、多くの先人が音楽「作品」だけではなく、音楽に関する「言葉」

生きた文化に学ぶ

を残してきました。音楽という頭ではなく体というイメージが強いですが、彼らの「言葉」は意外に深く、これもやや大げさですが、人間とは何か、生命とは何かという、究極的・根源的な問題につながるものも少なくありません。

楽器や楽譜をいったん脇に置いて、先人たちの「言葉」と向き合ってみる。そうすることで、自分の世界観・人間観も広がる。音楽に関する思想や哲学を扱う研究も、力を入れていくことのひとつです。

いわゆる「お祭」が好きで、よく出かけていきます。新潟の祭は音楽・芸能の宝庫で、いかに音楽が人々の生活に結びついているか、目の当たりにすることができます。学生とともに地域の祭りに参加したりもしていて、毎年行っている佐渡島での「芸能合宿」は研究室の名物。「生の文化」に触れることで、これからの地域や教育のあり方について、深く考えて欲しいと思っています。



玉村 恭(たまむら きょう) 芸術・体育教育学系 准教授

東京都町田市出身。国際基督教大学教養学部卒業、東京大学大学院人文社会系研究科単位取得退学、平成22年1月に本学に着任。専門は音楽学。日本の古典音楽・音楽史および日本の美学思想史を研究。

特集

「がっきょうセンター」

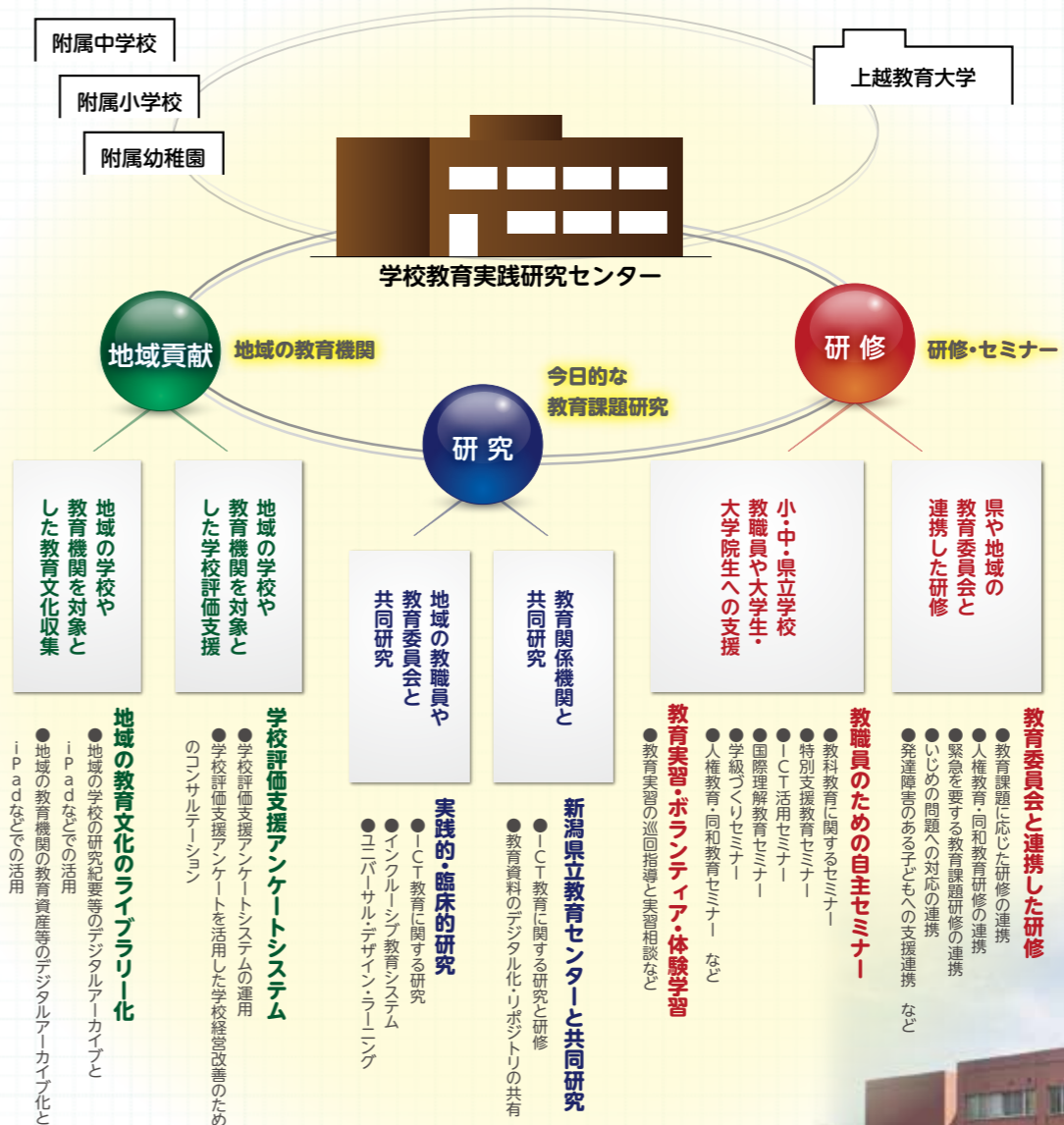
学 校現場に寄り添う教育実践研究を行うのが学校教育実践研究センターの使命です。幾度か名称は変わりましたが、「学教センター」の呼称で親しまれています。「学ばざるもの教えるべからず」、「学教」の文字にも深い意味があります。学び続ける教師であることが、今問われていますが、「学教センター」は、ずっと昔から、そしてこれからも学び続ける教師のための修行の場です。



石野 正彦
センター長

専任教員も特任教員もセンター構成員は学校現場での教職経験をもっています。常に学校教育課題をフォローし、課題解決をお手伝いするとともに教員養成課程のカリキュラムに反映させていく仕事をしています。

学校教育実践研究センターの戦略的な地域連携



遠隔交流システムを利用した研修やセミナーの実施

上 越教育大学では平成21年度より学校教育実践研究センターを地域連携のプラットフォームとして近隣4市教育委員会と連携し、現場教員及び本学院生・学部生を対象とした研修やセミナーを協働で実施しています。

さらに平成27年度から、これらの研修やセミナーの一部は、遠隔交流システムを使って新潟県教育委員会、魚沼市教育委員会と佐渡市教育委員会と連携し、実験的に実施しています。

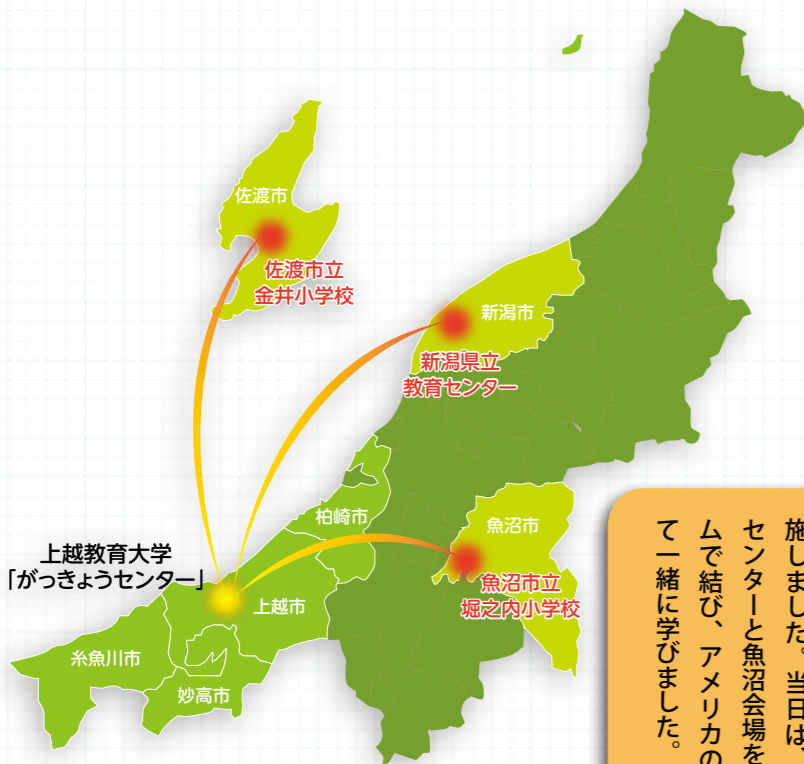
Web会議システムを利用することで離れた複数の地点を結び、研修を行うことが可能です。これまでに学級づくり、アクティブ・ラーニング、UDL、ICTなどの研修会を行いました。

8月2日(火)には昨年度に引き続き、バインズ亀山先生(ニューヨーク州・サイコロジスト)と中川優子先生(シカゴ・ホワイトリー校教諭)を講師にUDL(Universal Design Learning)研修会を実施しました。当日は、学校教育実践研究センターと魚沼会場をWeb会議システムで結び、アメリカの動向や実践について一緒に学びました。

清水 雅之
准教授

教職員のための自主セミナー

教職員のための自主セミナーは、学校現場の教職員、大学生、大学院生が共に学ぶ自主参加型セミナーです。日々生起する様々な教育課題に対して、セミナー主催者が教えるというのではなく、主催者も受講者も一緒に考えることを大切にしています。



研修

教育実習・ボランティア・体験学習の支援

教

育実習期間中は、実習生の授業を参観する巡回指導と実習相談を行っています。実習生が気軽に相談できるように、平日は18時～21時、土曜日は13時～16時、教育実習支援室で学教センターの教員が輪番で待機しています。学校現場での経験を生かし、実りある実習となるように、実習生一人一人の学びをサポートしています。

小学校実習の目的は、児童理解を深め、児童の実態に基づいた授業を構成し実践する能力を高めることです。そのため、観察実習(5月)と本実習(9月)の分離方式で実施しています。

学生は、地域の小学校で、現場のスタッフとして実際の教育活動に参加します。子どもと関わったり、教員の仕事を観察したりしながら、教職の厳しさ、素晴らしさを実感します。

長沼 智之
特任准教授

佐藤 人志
特任准教授

5月には3週間の中学校実習があります。小学校とのつながりや違いを実感しながら、中学生への適切な指導・支援の在り方を学び、授業づくりを通じて教科の指導力を高めます。

菊池 雅樹
特任准教授

学部1年生の体験学習。今年は花や野菜をみんなで育て、収穫パーティーも楽しみました。火おこし器を使って火をおこし、羽釜でご飯も炊きました。附属小学校の運動会のお手伝いや高田の町探検もしました。

渡辺 径子
准教授

研究

教育実践研究の推進

学

校教育に関する理論的・実践的知識を集積し、それを活用できるようにすることで、学校教育全般の質の向上に資することを目的として、編集委員会を設け、毎年、教育実践研究を発行しています。また、掲載された教育実践論文の発表会を翌年の8月上旬に実施しています。掲載論文は、次のサイトで閲覧できます。
<http://www.educ.juen.ac.jp/library/>

実践を論文にまとめることで、客観的に自分の実践を振り返ることができます。毎年、たくさんの先生方から教育実践研究論文の投稿があり、発表会でも熱心な質疑が行われています。

中野 博幸
准教授

海外における教育事情(小学校教育、中学校教育、高等教育、ICT教育、教員研修等)を視察調査し、教員養成カリキュラムに反映させ、21世紀を生き抜く力+αの育成をはかることのできる教員養成を目指しています。

鈴木 善士
特任准教授

地域貢献

学校及び地域社会との連携・支援

W

eb上で学校評価アンケートを簡単に作成したり、集計することができるようシステムを開発し、運用しています。上越市、妙高市、糸魚川市、柏崎市の学校であれば団体IDを申請することで、アンケートシステムを利用することができます。作成されるアンケートはマークシート形式で、負担の大きかった処理業務を軽減することができます。

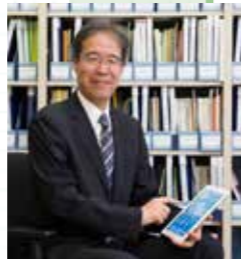


学

習に利用できるiPadやインクルーシブな教育・人権教育・同和教育に関する図書の出し出しを行っています。

また、上越市、妙高市、糸魚川市、柏崎市の学校の研究会紀要や校内研修のまとめなどの資料の収集を行っています。大変古く貴重な資料をデジタル化することを進めており、これらの資料はiPadでも閲覧することができます。

学教センターでは、学校現場の様々なニーズを踏まえ、教職員のための自主セミナーや教育委員会との連携研修を企画・運営することなどを通して、学校や地域社会への連携・支援を積極的に行っています。



佐藤 賢治
特任教授

学教センターのメンバーは、常に前向きに教育のことを考え活動しています。教育実習のサポートのみならず、学校現場の様々な課題に対し、学校職員と共にその解決に関わったり、地域全体の教育の質の向上を目指したりしています。



大地のぶた 上越店



information
大地のぶた 上越店
〒943-0896 上越市飯1392
Tel 025-521-4463

- ①とても美味しく、いい雰囲気だから!
- ②大地のぶた食べ放題コース



黒田 勇次朗
学部2年 言語系コース (国語)

ラ・ソネ菓寮 春日山店



information
ラ・ソネ菓寮 春日山店
〒943-0809 上越市春日山3-19-7
Tel 025-526-2208

- ①ケーキはもちろん、フィナンシェやクッキーもおいしいです。誕生日ケーキ、感謝の気持ちを込めて贈り物を選ぶとき、ケーキを食べたいと思ったそんなとき、気軽に立ち寄れるお店だからです。
- ②洋ナシのタルト



堀内 裕加
学部4年 自然系コース (数学)

珈琲所コメダ珈琲店 上越店



information
珈琲所コメダ珈琲店 上越店
〒942-0063 上越市下門前1645
Tel 025-539-0571

- ①家族でよく行っているから。
- ②あみ焼きチキンホットサンド、バナナジュース



木村 友美
学部2年 臨床心理学コース

- ① 選んだ理由
- ② おすすめメニュー

麺ぐるい

- ①上越では珍しい細麺が選べるし、とりこつ&とんこつの濃厚なスープに麺がよく絡んで最強の旨さが味わえる!
- ②とりとんラーメン



information
麺ぐるい
〒942-0001 上越市中央1-20-2
Tel 025-512-4253



戸川 昂祐
学部4年 学校臨床コース (学校心理)

食欲の秋!

Do you know the good shop?

大学周辺のおいしいお店

珈琲工房かさはら (KASAHARA)



information
珈琲工房かさはら (KASAHARA)
〒942-0061 上越市春日新田5-4-7
Tel 025-512-4737

- ①世界中のコーヒーが扱われていてコーヒー好きにはたまらない!
- ②サイフォンで淹れる珈琲とスコーン



重松 祥子
学部3年 教職デザインコース

Lait Deux レ・ドゥー



- ①季節ごとの色々なケーキが楽しめます。パンやカヌレも美味しいですよ!
- ②シュー・アラ・クレーム

information
Lait Deux レ・ドゥー
〒942-0071 上越市東雲町2-3-53
Tel 025-545-2670



中島 弘毅
大学院2年 自然系コース (理科)

編集後記

今回の企画で初めて知ったお店もあり、とても楽しかったです。どこも魅力的で、お店の人も良い人ばかりでした。快く取材を受けて下さり、本当にありがとうございます。

- 内山 杏 学部4年 芸術系コース (美術)
- 白井 沙也子 学部4年 学校臨床コース (学校心理)
- 滝田 美夏 学部4年 臨床心理学コース
- 中井 歩 大学院2年 芸術系コース (美術)



陸上競技部

技術も指導力も身につく陸上競技部

陸上競技部は現在学部生19名、大学院生11名の計30名で活動しています。合同練習は週4日で、それ以外の日は各部員のコンディションに合わせて個人練習・休息となります。普段はウォーミングアップを全体で行った後、種目ごとに分かれて練習をしています。天候やメニューに合わせて、グラウンドやウエイトルーム、桜で有名な高田公園陸上競技場などで練習を行っています。時には山や海といった土地を生かした場所での練習も行います。

1年間の主要な大会は春と秋に行われる北信越大会と夏に行われる全国教育系大学陸上競技大会です。北信越の大会で優勝、入賞する選手や、全国レベルの大会で入賞する選手もあり、お互い良い刺激を与え合いながら



活動することができています。また、顧問の先生からは部の運営、大会への臨み方等についてご指導いただき、大学院生からは技術的な面でのアドバイスをいただいています。多数の方々の支えにより充実した練習、大会への参加ができています。

さらに、小学生陸上クラブのコーチをさせていただいたり、マラソン大会やロードレースに役員として参加するなど、地域に密着した活動も行っています。中でも陸上クラブで小学生に指導する経験は教育大学の学生として非常に勉強になっています。普段指導をしている児童が大会で頑張る姿や優勝する姿には感動も覚えます。これからは地域と関わりの深い部活動でありたいと思っています。

大会等の関係で様々な場所へ行くことが多く、遠いところでは大阪や博多にまで足を運びました。そういったところでは観光も行い、部員の仲も密接なものとなっています。目標に向かって頑張ることができ、楽しさもある最高の部活動です。



DATA

平成28年10月現在
部員数/30名
活動日/毎週月、水、金、土曜日
活動成績/
・春季北信越大会
[入賞のべ5名]
・全国教育系大学陸上競技大会
[優勝2名、入賞のべ9名]
・日本学生陸上競技
個人選手権大会[5位入賞]

【取材協力者】

学部3年 自然系コース(数学)
大竹 凌

DATA

平成28年10月現在
部員数/6名
活動日/毎週月、木曜日
活動場所/大学会館内 第2集会室
活動実績/七夕茶会、越秋祭茶会など

【取材協力者】

学部3年 幼児教育コース
松浮 加奈

茶道部

アットホームでみんな仲良し

私たち茶道部は、学部生と院生合わせて6人と少ない人数で活動しています。けれど学年を超えて仲が良く、いつも和気あいあいと活動しています。週2回の活動では、お互いにアドバイスをしながら楽しくお稽古をしています。月に2、3回外部の先生に見て頂くこともあるので、茶道を基本から学ぶこともできます。茶道と言うと敷居が高い、なんとなく難しそう、といった感想を持たれる方が多いと思います。しかし実際は、多少の決まりごとはあるけれど、人と人の心を繋いでくれるとても温かいものです。これからは楽しく日本の伝統文化である茶道を学んでいきたいです。

世界に広がる茶道

茶道部では国際交流活動も行っています。年に1度、七夕の季節には留学生の方々を招いて七夕茶会を行っています。今年度もたくさんの留学生さんと共に、願いを込めた短冊を笹に飾るという日本の文化を楽しみながら

茶道に触れて頂きました。みなさんとても楽しんでくれていて、私たちもとても嬉しく思いました。昨年には茶道部に興味を持って入部し、少しの間共に活動してくれた仲間もいます。これからは日本の伝統文化の1つとして、茶道を多くの人に楽しんでほしいと思います。

一期一会を大切に

他の団体さんと違い大会やコンクールはありませんが、越秋祭ではお茶会を開き、多くの方に茶道を体験して頂いています。1回のお茶会の時間はあまり長くはありませんが、そこでの出会いに感謝をし、心を込めておもてなしをさせて頂いています。

先にも述べたように、茶道は人と人を繋いでくれるものです。これからは、一期一会という茶道の心を大切にして、茶道を通して多くの方々と出会えたら良いなと考えています。



附属学校 だより

国際交流活動

上越教育大学 附属小学校

オーストラリア ウェストミンスター校 交流



福笑い

すごろく

けん玉

集中して、
膝を使って
やってみて



折り紙



当校5・6年生20名が、8月20日から6日間の日程で、本学との協定校であるアデレード市のウェストミンスター校を訪問しました。
この訪問は、10年前から続いており、2年に1回の訪問活動を通して、お互いの国の言葉、文化、生活様式を学ぶとともに、友好を深めることを目的としています。
22日に行われた交流活動では、福笑い、すごろく、けん玉、折り紙などの日本の遊びを紹介したり、オーストラリアのスポーツを体験したりしました。
始めこそ緊張していた子どもたちでしたが、教えたり、教えられたりと一緒に

活動する中で徐々に心が通じ合い、進んでコミュニケーションを図ろうとする姿が見られました。
23日にはウェストミンスター校の子どもたちと一緒に、アデレード観光に出かけました。動物園では、多くの子どもが楽しみにしていたコアラやカンガルーにさわったり、タスマニアアンデビルなどの日本ではなかなか見ることができない動物を見たりしました。
今回の訪問で感じたことや得たことが、これからの自分づくりにつながることを期待しています。



学び続けられる喜びこそ、 教師の原動力

愛知県の現職派遣教員として、特別支援教育コースに在籍させていただきました。笠原研究室で、肢体不自由、重度・重複障害の子供たちへの指導と支援の在り方について、仲間と共に学びました。慣れない雪国での生活の中で、本当にたくさんの学びと貴重な経験をすることができました。この2年間、教師を続けていく上での大きな動機付けとなっています。

現在、軽度の知的障害のある生徒を対象とした高等部単独の分校に勤務しています。卒業後に就職を目指す元気な生徒たちからエネルギーをもらい、

活気ある日々を過ごしています。学校生活は、毎朝の部活動から一日が始まります。授業は工業や流通・サービスなどの実技を中心とした教科から、国語、社会などの机上で学習する教科まで、バラエティに富んでいます。働くためには何が必要なのか、生活面でも自立し、暮らしを充実させていくためには何が必要なのかを生徒と一緒に考えながら、一人一人の目標の達成に向けて共に励んでいます。

笠原研究室では、個別の指導計画、そして授業のP（計画）・D（実践）・C（評価）・A（改善）について学びました。そのノウハウを生かし、現在は教務主任として、学校の教育課程のPDCAに取り組んでいます。新しい学習指導要領の方向性を見極め、大学院で培った「学び続けること」を実践しながら、奮闘しています。

いつまでも学ぶことができる幸せが教師の魅力。学ぶことのよさ、喜びを生徒たちにも伝えていきたいと思っています。



渡辺 大倫
(わたなべ ひろみち)

愛知県新城市出身。愛知県立豊橋養護学校在籍時、平成21年度から2年間、特別支援教育コースで学ぶ。現在は愛知県立豊川特別支援学校本宮校舎に勤務。教務主任として学校運営に携わっている。また愛知県教育研究論文優秀賞受賞、日本特殊教育学会での発表など、大学院での学びの成果を生かして精力的に活動している。



上教大 なんでも 掲示板



シエナ・ウインド・オーケストラ 及び上越文化会館と 相互連携協力協定を締結

上越教育大学は、8月10日、プロ楽団「シエナ・ウインド・オーケストラ」を運営するジャパン・シンフォニック・ウインズ及び「上越文化会館」の指定管理者NK Sコーポレーションと相互連携協力に関する協定の調印式を行いました。

この協定は、上越教育大学とシエナ・ウインド・オーケストラ及び上越文化会館の3者が相互の連携と協力により、地域の芸術文化の振興又は普及を図るとともに、児童・生徒・学生の教育の発展に資するための活動に貢献することを目的とするものです。

このほど上越文化会館で行われた調印式には、佐藤芳徳上越教育大学長、高澤芳郎ジャパン・シンフォニック・ウインズ事務局長、伊藤雪夫上越文化会館館長が出席し、協定書を取り交わしました。

この協定に基づき、今後は定期的な演奏会やワークショップを企画し、上越教育大学は、学生を派遣し公演の準備などを手伝うと共にアートマネジメントの現場を体験します。佐藤学長は「教員を養成する上で、質の高い芸術文化に触れることは大変有意義なこと。アートマネジメントが学べることも貴重なことだ」と話し、今後の活動に期待を寄せました。



附属中学校女子400メートルリレーが 2年連続で全国中学校陸上競技選手権 大会入賞

長野県で開催された全国中学校陸上競技選手権大会において、附属中学校陸上競技部が女子4×100メートルリレーで昨年に引き続き、8位入賞を果たしました。準決勝では、48秒96と昨年を上回るタイムをマークしました。

「上越教育大学基金」ご寄附のお願い

上越教育大学では、法人の財政基盤の強化を図るとともに、独自の学生支援や教育・研究活動支援等の諸事業を推進し、本学の教育・研究機能の強化と魅力づくりに努めることを目的に「上越教育大学基金」を設置しています。企業、団体、個人のみならず皆様からのご支援をお願い申し上げます。

- 基金が行う事業**
- 学生支援事業
 - 国際交流支援事業
 - 教育研究支援事業
 - 地域貢献事業
 - 附属学校整備事業
 - キャンパス環境等整備支援事業
 - その他本法人の諸活動支援事業

税法上の優遇措置
〔個人の皆様からのご寄附〕
所得税控除等を受けることができます。
〔法人の皆様からのご寄附〕
寄附金の全額を損金に算入できます。

寄附の申込み
〔振込用紙によるご寄附〕
上越教育大学基金のホームページ「寄附申込フォーム」より、振込用紙をご請求ください。
〔現金によるご寄附〕
現金でのご寄附を希望される方はお手数ですが、お問い合わせ先までご連絡ください。

お問い合わせ先 上越教育大学総合交流推進室(上越教育大学広報課内)
〒943-8512 上越市山屋敷町1番地 上越教育大学事務局(2階)
TEL 025-521-3255 FAX 025-521-3627 E-mail kikin@juen.ac.jp

平成28年度上越教育大学大学院 同窓会評議会開催のご報告

平成28年7月16日(土)、上越市内のホテルを会場に平成28年度上越教育大学大学院同窓会評議会を開催しました。本評議会参加者 佐藤芳徳学長、同担当 西村俊夫理事の臨席の中、岩手、山形、群馬、埼玉の各支部代表者及び道徳・生徒指導、英語、社会、美術、保健体育、教育経営の各コース等



代表者の在学院生よりご出席をいただきました。また、上越教育大学同窓会との連携・交流を担っており、また総合交流推進室参事役にもご出席をいただきました。

議事に先立ち、各支部会の活動状況について、ご出席の代表者から報告がありました。いずれの支部会も創設当初会員が定年退職を迎えつつあること、新規修了生名簿等の確認も難しく、支部会開催案内が届きにくい状況にあることなどが話題にあげられました。大学院の改革に伴う専攻コースの再編もあり、各専攻コースの在学同窓生代表の登録に滞りが多く、同窓会からの在学中の支援が行き届かない状況にあることも事務局より報告がありました。院生協議会との連携も視野に改善を進めたく存じます。

議事では、事務局より平成27年度事業報告と会計・監査報告が行われた後、平成28年度の役員について説明があり承認されました。引き続き、平成28年度事業計画と予算の説明があり承認されました。本年度より、大学院同窓会・上越教育大学40周年記念事業の計画を開始いたします。会員の皆

様からもご意見やご希望をいただきながら準備いたしたく存じます。ご支援とご協力をどうぞよろしくお願い申し上げます。

また、評議会に先立ち、同ホテルにおいて、佐藤学長を議長に第3回「上越教育大学と上越教育大学大学院同窓会との連携協議会」を開催し、大学と同窓会との連携強化について協議され、主に同窓会と大学の持続可能な業務の連携のあり方について意見交換が行われました。

なお、連携協議会は大学院同窓会評議会開催日に合わせて、年1回定例で開催しており、議事については評議会報告に合わせ事務局よりご報告申し上げます。

評議会終了後は懇親会を開催し、互いの研究について議論を交わし合った当時を思い出させる懐かしい地酒の味を楽しみながら、話題はいつまでも尽きませんでした。

同窓会事務局では、同窓生相互の情報交流とつながりに支障のないよう、各支部及び総合交流推進室との連携をいっそう密にし、修了生名簿の整備と情報提供に努めて参ります。今後も、新支部会の創設、各支部の運営や講師派遣等を全面的に支援して参りますので、ご希望、ご要望などございましたら、同窓会事務局までお気軽にご連絡くださいますよう、どうぞよろしくお願い申し上げます。

修了生の住所等をお知らせください

転居・転職・結婚等により個人情報の変更があった場合は、お知らせください。

詳細については、公式ホームページをご覧ください。

上越教育大学 同窓会

お問い合わせ先
上越教育大学大学院同窓会事務局
E-mail dousoukai@juen.ac.jp



秋の香り

教育においては、このことが最も大切ではないでしょうか。子どもたちは、ある先生から何を教わったかは、覚えていないものです。つまり、自分の知識や能力が、いつだれに教えてもらったものか、あるいは自ら習得したものかについては、あまり覚えていません。しかし、人としての生き方や道徳的な内容は、誰から教えてもらったか、をいつまでも覚えているものです。また、知らず知らずのうちに、子どもたちが薫陶を受けている。教育の神髄はそこにあると思います。

そのためには、教師としての教養を深め、人格を磨かなければなりません。しかし、優れた人でなければ教師が務まらないと言っているわけではありません。優れた教師になるために、多くの書物を読み、多くの経験を積み、深く思索しようとする姿勢こそが大切です。未完成でかまいません。未完成と自覚し、謙虚に自分を高めようとしている人こそ、優れた教師です。

秋は深くものを考えるのに適した季節です。思索の場は、机の前だけではなくありません。屋外に出て、流れる雲を眺めていても、様々な思索ができるでしょう。秋の香りもそこに感じられるかもしれません。

学長 佐藤芳徳



爽やかな青空、白く流れる雲、黄色く揺れる稲穂、あざやかな紅葉、秋は多くの色に包まれています。また、秋は実りの季節でもあり、おいしい新米や多くの果物等が市場に出回ります。その一方で、来たるべき厳しい冬を連想する季節でもあり、四季の移ろいを最も身近に感じる季節でもあります。秋は色だけでなく香りにもあふれています。

菊の香や奈良には古き仏たち 芭蕉

菊の香が漂う中、多くの名刹の仏像を詠ったものでしょうか。にぶい秋の日差しを受けてたたずむ路傍のお地藏様なども含まれているかもしれません。単純な情景描写の中に、夏から秋へ秋から冬へという悠久の生命の営みを感じることができます。どこにでもあのような何気ない自然の情景や、人々の一瞬の動作の中に、多くの情報や深い意味が隠されていて、それをきちんと受け取るには普段からその準備しておかなければなりません。

薫陶という言葉があります。もともとは香を焚いて薫りを楽しみませ、粘土を焼いて陶器を作ることですが、優れた人格で人を感化し立派な人間を作ることとして使われま

インタビュー 大学院で

輝く人

音楽大学から教育大学大学院へ

毎日がむしゃらに楽器の練習に明け暮れ、気が付けば大学4年生。演奏家として身を立てるほど仕事もなく、進路選択に悩む日々。「音楽の先生になるのが目標だけど、もう少し演奏の研究にも集中したい!」「故郷である新潟の音楽界を盛り上げたい!」「教員になる上で足りないスキルを補完したい!」と思うようになりました。そんな私の希望を満たしてくれたのが本学の大学院でした。

学生、演奏家、非常勤講師として

大学院に入り、今まで触れたことのない分野を学んだり、研究する機会が増えました。本学には、作曲・声楽・器楽・邦楽など様々な分野の先生がいらっしゃり、気軽に相談できるのが魅力的です。また、現在中学・高校で音楽の非常勤講師として勤めているのですが、そこでの課題を大学に持ち帰り、現職の先生にすぐ相談できることも自分のスキルアップに繋がって

いると感じています。演奏研究では、第51回新潟県音楽コンクールにて最優秀賞を頂くことができました。その他にも4月からの上半期で21回の演奏の機会に恵まれ、そして新潟県内の多くの吹奏楽部で指導させていただき、忙しくも、充実した上半期を送ることができました。

研究内容

サクソフォンという楽器における初期の作品とその作曲家について研究しています。サクソフォンの黎明期を支えた楽曲の多くは、残念ながらあまり親しまれていません。そこで、私自身がそれらの作品を演奏することで、初期の作品が再び光を浴び、多くの人に演奏されることを目的としています。研究の集大成であるリサイタルを本学の講堂にて12月16日に開催する予定です。

こんな先生になりたい!

「新潟の学校を全日本吹奏楽コンクール



大学院2年
芸術系コース(音楽)
田村 亮太さん

へ連れて行きたい!」これが私の夢です。吹奏楽部の指導者として、他人と演奏する楽しさ、難曲を演奏する厳しさ。そして、日々の活動を通して人間として大切なことを生徒に教えられる先生になりたいです。授業では作品の魅力や仲間と一つの音楽を作り上げる素晴らしさを伝え、合唱や合奏を通して協調性やコミュニケーション能力を育てていきたいです。



インタビューを終えて

学生、演奏家、非常勤講師と、どれも全力で取り組む田村さん。どんなに忙しくても頑張れる理由を知ることができました。これからも、お互いに学び合い、それぞれが目指す教師像に向かって頑張っていきましょうね!

■聞き手・文(写真左より)
大学院2年 芸術系コース(音楽)
青山 梨紗子
松田 珠実
(本人)
居ヶ内 はるか



アンケートにご協力ください
公式ホームページにおいて本誌に関するアンケートを実施しています。左のQRコードを読み込むことで、携帯端末からでもご回答いただけます。
QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

